

Vol.13 No.1 '90

1990年10月31日 発行 目次

〈特別講演〉

非特異性炎症性腸疾患と微量金属5

防衛医科大学校 第2内科 丹羽寛文

〈招聘講演〉

薬物の消化管移行と吸収に及ぼす諸因子16

慶應義塾大学 薬理学 加藤隆一

〈シンポジウム〉 胆汁酸をめぐる諸問題

小腸における胆汁酸とcholesterolの吸収29

京都府立医科大学 第3内科 山根行雄 他

コレステロール吸収と胆汁酸36

塩野義研究所 内田清久 他

上部消化管及び終末回腸における胆汁酸吸収能40

東京医科歯科大学 第2外科 大久保靖 他

各種胆汁酸の膵外分泌に対する作用と腸管内胆汁酸(タウロコール酸)の役割45

東京都老人総合研究所 臨床第1生理 宮坂京子 他

抱合型胆汁酸による小腸刷子緑膜酵素degradationの機序50

慶應義塾大学 内科 吉岡政洋 他

慢性膵炎患者の胆汁酸代謝異常と脂肪消化吸收不良55

弘前大学 第3内科 中村光男 他

Total biliary diversionの脂肪吸収とCholecystokinin分泌に及ぼす影響59

東北大学 第1外科 高橋道長 他

CCK動態からみた胆汁酸と胆嚢機能64

京都大学 第1外科 東出俊一 他

胆汁酸測定による腸疾患の病態診断法68

筑波大学臨床医学系 消化器内科 松崎靖司 他

高分子硫酸デキストラン投与による実験的腸炎における胆汁酸代謝—催石性に関連して—72

広島大学 第1内科 田妻 進 他

実験的各種胆道再建下における胆汁酸の変化76

山口大学 第2外科 山本達人 他

遠位側小腸大量切除後の病態に及ぼすUDCAおよび活性型ビタミンDの効果80

国立仙台病院 外科 今村幹雄 他

回腸末端部切除による胆汁酸代謝異常の検討84

滋賀医科大学 第2外科 平野正満 他	
〈ワークショップⅡ〉経腸栄養の基礎と臨床	
成分栄養剤の基礎的特性	90
味の素株式会社 医薬事業部 大橋弘幸	
経腸栄養の基礎:ペプチド栄養剤の特徴	94
テルモ株式会社 技術開発部 高尾荘二	
分離大豆蛋白質由来低分子ペプチド混合物を窒素源とした経腸栄養剤	99
徳島大学 病態栄養学 中坊幸弘 他	
半消化態経腸栄養剤の組成設定の根拠ならびに製剤化の工夫	104
玉川大学 農学部 清澤 功	
健康成人の腸内細菌叢・栄養状態におよぼす半消化態栄養剤クリニミールの影響	108
東京女子医科大学 消化器内科 飯塚文瑛 他	
ペクチン添加成分栄養剤による術後早期経腸栄養法	
—消化管ホルモン動態よりみた糖質代謝について—	114
東京女子医科大学 第2外科 平泉泰自 他	
経腸栄養剤の組成と腸粘膜の形態と機能	118
滋賀医科大学 第2内科 馬場忠雄 他	
ヒト腸管における脂肪酸結合蛋白の定量と長鎖脂肪酸の大腸からの吸収能について	124
新潟大学 第1外科 酒井靖夫 他	
消化器外科手術後の経腸栄養 —腸管水分動態、腸管粘膜酵素変動に関する検討—	128
徳島大学 第1外科 西 正晴 他	
経腸栄養に用いる器材の評価	132
東京女子医科大学 消化器内科 屋代庫人 他	
消化器外科における経腸栄養の有用性 —臨床的・実験的解析によるTPNとの比較—	137
熊本大学 第2外科 原田和則 他	
吸収不良症候群と経腸栄養	141
兵庫医科大学 第4内科 田村和民 他	
活動期クローン病に対する経腸栄養 —構成成分の違いからみた効果発現機序—	145
東北大学 第3内科 樋渡信夫 他	
活動期クローン病に対する経腸栄養療法の有用性	
—成分栄養剤と半消化態栄養剤の比較—	149
北里大学東病院 消化器内科 小林清典 他	
クローン病における経腸栄養法による長期栄養管理について	154
浜松医科大学 第2外科 中井勝彦 他	
クローン病に対する低分子ペプチド成分栄養剤投与による経腸栄養の有用性	158

旭川医科大学 第3内科 綾部時芳 他	
肝疾患患者の経腸栄養	163
岐阜大学 第1内科 吉田 貴	
上部消化管術後の経腸栄養管理	167
東京慈恵会医科大学 第2外科 久保宏隆 他	
クローン病に対する長期経腸栄養施行時の問題点 — 微量元素補給の重要性—	170
大阪大学 第1外科 根津理一郎 他	
在宅経腸栄養とQuality of Life	175
国立病院医療センター 消化器科 松枝 啓 他	
外科手術後の在宅経腸栄養療法	180
滋賀医科大学 第2外科 佐藤 功 他	
在宅経腸栄養法の継続法の検討	184
金沢大学 第2外科 八木雅夫 他	

あとがき

年2 回刊行になって2 年目を迎えたが、発行もほぼ順調でひと安心というところである。

本号は丹羽寛文教授の「非特異性炎症性腸疾患と微量金属」の特別講演は炎症性腸疾患において活動期および非活動期ともに血清微量金属の低下がみられるとし、これら疾患の病態の特異性を示していると考えられ、また微量金属をも含めた栄養療法の重要性が示唆された。また加藤隆一教授による「薬物の消化管移行と吸収に及ぼす影響」の招聘講演は我々臨床医にとって大いに役立つ内容であった。

これに加えシンポジウム「胆汁酸をめぐる諸問題」、ワークショップⅡ「経腸栄養の基礎と臨床」の計36題の論文が掲載され、この分野の多岐にわたる豊富な内容となり、一段と充実したものとなった。基礎的な検討が臨床に結びつき、各種病態の原因追求と治療への貢献が益々検討されている事がうかがわれ、読みごたえのある会誌となった。

(A. I)